

薬の分包や内視鏡に挑戦

善通寺でフェス 親子連れら参加



内視鏡を使った手術を疑似体験する子どもら—
善通寺市仙遊町、四国こどもとおとなの医療セ
ンター

四国こどもとおとなの医療センター(善通寺市仙遊町、中川義信院長)で病院フェスティバルが開かれた。大勢の親子連れらが訪

れ、院内を巡りながら医師や薬剤師の仕事に疑似体験し、医療への興味を深めた。フェスは地域の人たちに医療の現場を身近に感じて

もらおうと、同センターが毎年開いており、5回目の今回は14日に実施した。

薬剤師体験では、子どもたちが薬の分包に挑戦。錠剤の代わりにグミやチョコレートピンセットでつまみ、自動分包機に投入すると、それらが小さく袋詰めされて出てきて、お土産に手渡されると大喜びしていた。また、外科手術の体験コーナーでは、内視鏡を使ったり、手術用の針と糸で人工皮膚を縫ったりして医師の仕事に触れた。

丸亀市飯野町の三浦颯季ちゃん(5)は「少し難しかったけれど、お医者さんが教えてくれたから上手にできた」と満足そうに話していた。

県森林組合連合会と農林中央金庫はフェスに合わせ、同センターに県産ヒノキ製の電波時計35個と下足

箱を寄贈。オープニングセレモニーで、代表者が中川院長に目録を手渡した。